

取扱説明書
ーアドバンスドMCACC PC表示用アプリケーションソフトー

お取り扱いについてお困りのとき

http://pioneer.jp/support/

カスタマーサポートセンター

フリーコール **0120-944-222**

一般電話 **044-572-8102**

受付時間
月曜～金曜
9:30～18:00
土曜
9:30～12:00、13:00～17:00
(日曜･祝日･弊社休業日を除きます。)

※ フリーコールは、携帯電話･PHSからはご利用になれません。一般電話は、携帯電話･PHSからご利用可能ですが、通話料がかかります。



AVマルチチャンネルアンプ

この取扱説明書について

パイオニア製AVマルチチャンネルアンプのアドバンスドMCACCで測定した部屋の残響周波数特性、スピーカーの群遅延特性およびMCACCのパラメーターを、お客様のパソコンで表示する専用アプリケーションソフトの取扱説明書です。
測定データの取り込みから測定結果の表示、困ったときの対処まで、同アプリケーションを使うときの情報が記載されています。なお、アプリケーション使用の際は製品本体の操作も必要ですので、製品に付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。

重要

この取扱説明書に記載されている「スピーカーの群遅延特性」、「群遅延特性」および「Group Delay」についての説明は、Full Band Phase Control機能に対応したAVマルチチャンネルアンプに対してのみの説明です。

アドバンスドMCACCアプリケーションについて

アドバンスドMCACCアプリケーションソフトの機能は、製品本体の機能「残響特性の確認」や「群遅延特性」（⇒製品本体の取扱説明書を参照）と同じ目的で使われる機能で、視聴環境の残響特性およびスピーカーの群遅延特性をグラフ表示するものです。パソコンを使うことで、グラフをより美しくわかりやすく表示することができます。また、製品本体のMCACC MEMORY内にある測定値を表示することもできます。

■アプリケーションを使用するためのPC環境の必要条件

- OS（オペレーティング・システム）が、Microsoft® 「Windows® 7 Home Premium/Ultimate/Professional」、「Windows® Vista Home Basic/Home Premium/Ultimate SP2」または「Windows® XP Professional/Home Edition SP3」のいずれかであること
- 画面解像度が 1024 × 768 ドット（XGA）以上であること
- 製品本体とパソコンが LAN 経由でネットワークに接続されていること

Microsoft®, Windows®7, Windows®Vista, Windows®XP は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

■アプリケーションの主な特長

1. 視聴環境の残響特性を 3 次元グラフで表示します。（補正前と補正後を表示可能）
2. 各スピーカーの群遅延特性を 3 次元グラフで表示します。（補正前と補正後を表示可能）
3. アドバンスド MCACC によるパラメーター（測定結果）を一覧表示します。
4. グラフの表示方法をさまざまに変更できます。
5. 測定した各種データをパソコンに保存できます。
6. 測定時の部屋の状況などを記録できるメモ機能があります。
7. 各グラフおよび MCACC のパラメーターを印刷することができます。

続く

■アプリケーションの活用方法

1. 製品本体の機能の「アドバンスド EQ セットアップ」（⇒製品本体の取扱説明書を参照）を行うとき、どの時間位置で補正を行うかを手動で設定できますが、その時間位置を決定するために、本アプリケーションの残響特性グラフ（Reverb）を参考にすることができます。
   詳しくは、▶ アドバンスド EQ セットアップでの補正時間位置の決めかた（15 ページ）をご覧ください。

2. 部屋の残響特性の乱れは正確な音場再現の障害となります。そのような場合、残響特性グラフ表示機能は、視聴環境の残響周波数特性を目で確認できる、強力なツールとなります。また、お客様が残響対策のために施した吸音材などの効果を、目で確認することができます。
   詳しくは、▶ 部屋の残響対策の確認（17 ページ）をご覧ください。

3. 補正後の残響特性を表示できます。これにより、お客様が測定したアドバンスド MCACC の EQ の効果を確認することができます。
   詳しくは、▶ 残響特性グラフの補正前・補正後表示について（19 ページ）をご覧ください。

4. 群遅延特性グラフ（Group Delay）では各チャンネルの補正前と補正後の群遅延特性が確認できます。
   詳しくは、▶ 群遅延特性グラフ（Group Delay）の見かた（21 ページ）をご覧ください。

5. MCACC のパラメーター表示（Parameters）では、製品本体の MCACC MEMORY 内に設定されている全パラメーター（測定結果）をパソコン上に一覧表示して確認することができます。
   詳しくは、▶ MCACC のパラメーター表示（22 ページ）をご覧ください。

製品本体からパソコンへ測定データを転送する

製品本体で測定した各種データをパソコンで表示するために、AVナビゲーターを使って製品本体からパソコンへデータ転送を行います。
AVナビゲーターの[接続ナビ]でフルオートMCACCを行い、測定後にMCACCアプリケーションを自動起動している場合、測定データは既にパソコンへ転送されています。
そのときの測定データを再度確認したいときは次のアプリケーションの操作(6ページ)へお進みください。
[接続ナビ]を行っていないときや、[接続ナビ]を行ったときとは別の環境で測定したデータをパソコンへ転送したいときは以下の手順を行います。

① 製品本体の操作で[フルオートMCACC]を行う。
(⇒製品本体の取扱説明書を参照)

② フルオートMCACCが終了したら「ホームメニュー」ボタンを押してホームメニューを終了する。
ホームメニューが終了した時点で測定データの転送準備状態となります。

③ パソコン側でAVナビゲーターを起動する。

④ AVナビゲーターのメニューから[Settings]を選んで[MCACCデータ]タブを選択する。

⑤ [MCACCデータの保存先]を指定する。
ここで指定された保存先へ測定データを保存します。[参照]を押すと保存先を変更できます。

⑥ AVナビゲーターのメニューから[MCACCアプリ]を選んでMCACCアプリケーションを起動する。
MCACCアプリケーションが起動されると同時に「MCACCデータ」画面が表示されます。

⑦ MCACCデータ画面の指示に従って測定したデータをパソコンに転送する。
手順①で測定したデータが手順④で指定した保存先へ転送されます。

→アプリケーションの操作(6ページ)へ進んで、パソコンからの測定データの呼び出しを行います。

続く

メモ

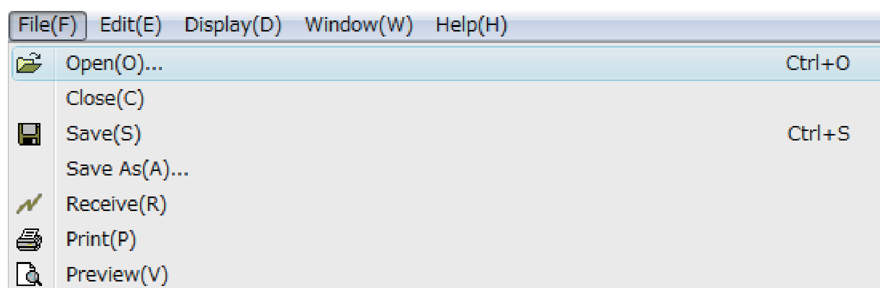
- データの転送が完了するまではAVナビゲーターを終了したり、製品本体の電源を切ったりしないでください。
- 製品本体の電源が入っている状態でMCACCアプリケーションを起動すると、そのたびに本体からパソコンへの測定データの転送を行います。この際、[MCACCデータの保存先]を変更しない限り測定データは上書きされてしまいますので、測定データを上書きしたくないときは、MCACCアプリケーションを起動する前に[Settings]の[MCACCデータ]で保存先を変更してください。
- フルオートMCACC測定後の残響特性グラフ(Reverb)表示画面で、補正前(Before)／補正後(After)のグラフを表示することができますが、このときの補正後のグラフは、フルオートMCACCによるEQタイプ：SYMMETRY補正後の残響特性を予測して表示しています。
  詳しくは→残響特性グラフの補正前・補正後表示について(19ページ)をご確認ください。
  MCACC補正後の予測表示ではなく、実測の残響特性グラフを確認したいときは、再度補正後の残響特性を測定してください。
  詳しくは→EQ補正後の残響特性(実測値)を表示する(20ページ)をご確認ください。
- フルオートMCACCのEQタイプをSYMMETRY以外(ALL CH ADJまたはFRONT ALIGNのいずれか)で補正したときは、補正後の残響特性を予測できないため、補正後(After)のグラフを表示することができません。この場合は、補正したEQタイプと同じEQタイプで再度、残響特性を測定することで、補正後のグラフを確認できます。詳しくは→EQ補正後の残響特性(実測値)を表示する(20ページ)をご確認ください。

アプリケーションの操作

パソコンに保存された測定データの呼び出しから、グラフ表示、データの保存までを行います。MCACCアプリケーションを起動させてから以下の操作を行います。

■測定データの呼び出し

① メニューバーの[File]から[Open]を選ぶ。



② パソコンに保存された[.mcacc]ファイルを選択して[開く]を選ぶ。

測定データが表示されます。
[.mcacc]ファイルはAVナビゲーターの[Settings]メニューにある[MCACCデータ]で指定された保存先に保存されています。

メモ

・残響特性グラフ(Reverb)、群遅延特性グラフ(Group Delay)およびMCACCパラメーター（MCACC Parameters)の表示用データは本体の電源をOFFにしても消去されません。ただし、残響特性グラフ(Reverb)と群遅延特性グラフ(Group Delay)の表示用データについては、再度残響測定や群遅延特性の補正を行うことで、製品本体のデータが上書きされてしまいます。いくつかのデータをグラフ表示させたい場合は、測定を行うごとにAVナビゲーターからの操作でパソコンへの測定データの転送を行ってください。
詳しくは→製品本体からパソコンへ測定データを転送する(4ページ)をご確認ください。

続く

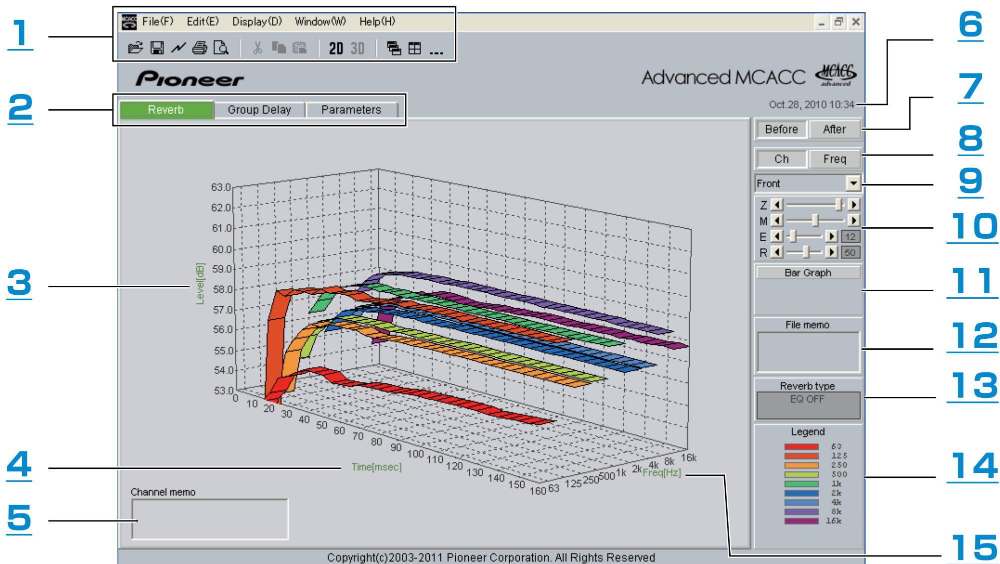
■グラフ、パラメーター表示（各部の名称と機能）

測定データを受信すると、グラフ、パラメーターの表示画面になります。表示画面は「Reverb」、「Group Delay」、「Parameters」の3つの項目に分かれています。それぞれの項目タブを選んで表示画面を切り換え、詳細を表示します。

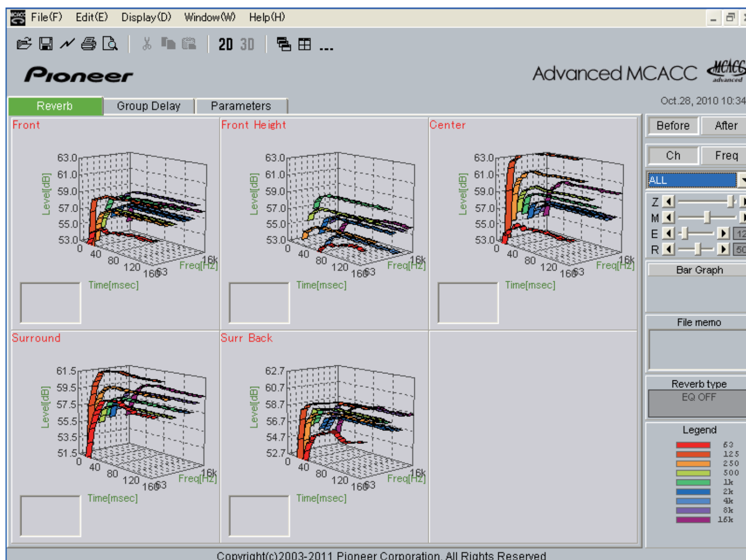
・Reverb（部屋の残響周波数特性グラフ）

補正前と補正後の残響特性グラフを切り換えることができます。また、各チャンネル/周波数ごとの個別表示とすべてのチャンネル/周波数の一覧表示(ALL表示)を切り換えることもできます。以下、チャンネル表示を例に個別表示とALL表示の各部について説明します。

個別表示（例：Front チャンネルを指定した表示）



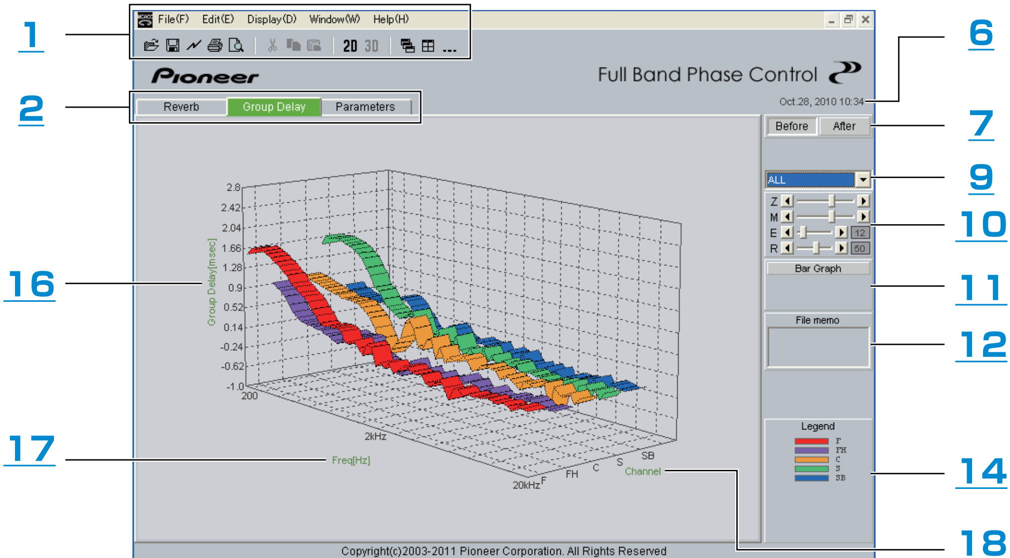
ALL 表示



続く

・Group Delay（スピーカーの群遅延特性グラフ）

補正前のスピーカーの群遅延特性と、補正後のスピーカーの群遅延特性の表示を切り換えることができます。また、すべてのチャンネルの群遅延特性表示と各チャンネルごとの群遅延特性を切り換えることもできます。この表示はFull Band Phase Control機能に対応したレシーバーのみとなります。



・Parameters（MCACCパラメーターの一覧表示）

すべてのMCACC MEMORYの測定結果を一覧表示します。それぞれのMCACC MEMORYごとに表示することもできます。

1
2
6
19
12

File(F) Edit(E) Display(D) Window(W) Help(H)
2D 3D
Pioneer
Advanced MCACC
Jan.07, 2010 09:24
Reverb | Group Delay | Parameters
ALL Memory
File memo

- MCACC Parameters -　[ALL MEMORY]

Speaker Setting

Front	Large
FrontHeight	Large
Center	Large
Surround	Large
Surr Back	Large x 2
Front Wide	No
Sub Woofer	Yes
Crossover	80Hz

Channel Level

	[M1]	[M2]	[M3]	[M4]	[M5]	[M6]
Left	-0.5dB	-3.5dB	0.0dB	0.0dB	0.0dB	0.0dB
Front Height L	0.0dB	+4.0dB	0.0dB	0.0dB	0.0dB	0.0dB
Center	-3.0dB	-3.5dB	0.0dB	0.0dB	0.0dB	0.0dB
Front Height R	+1.0dB	+4.5dB	0.0dB	0.0dB	0.0dB	0.0dB
Right	0.0dB	-1.0dB	0.0dB	0.0dB	0.0dB	0.0dB
Surround R	-3.0dB	-1.0dB	0.0dB	0.0dB	0.0dB	0.0dB
Surr Back R	+3.0dB	0.0dB	0.0dB	0.0dB	0.0dB	0.0dB
Surr Back L	+2.0dB	0.0dB	0.0dB	0.0dB	0.0dB	0.0dB
Surround L	-2.5dB	-3.0dB	0.0dB	0.0dB	0.0dB	0.0dB
Front Wide L	---	---	---	---	---	---
Front Wide R	---	---	---	---	---	---
Sub Woofer	+1.0dB	+0.5dB	0.0dB	0.0dB	0.0dB	0.0dB

Speaker Distance

	[M1]	[M2]	[M3]	[M4]	[M5]	[M6]
Left	2.10m	2.03m	3.00m	3.00m	3.00m	3.00m
Front Height L	1.76m	3.12m	3.00m	3.00m	3.00m	3.00m
Center	2.00m	1.97m	3.00m	3.00m	3.00m	3.00m
Front Height R	2.18m	3.08m	3.00m	3.00m	3.00m	3.00m
Right	2.20m	2.24m	3.00m	3.00m	3.00m	3.00m
Surround R	2.12m	2.23m	3.00m	3.00m	3.00m	3.00m
Surr Back R	2.56m	2.56m	3.00m	3.00m	3.00m	3.00m
Surr Back L	2.56m	2.59m	3.00m	3.00m	3.00m	3.00m

Copyright(c)2003-2011 Pioneer Corporation. All Rights Reserved

続く

1. メニューバー／メニューアイコン

それぞれのメニューで、以下の項目を実行できます。

File

Open	パソコンに保存された測定データやファイルを呼び出す。(→6ページ、13ページ)
Close	ファイルを閉じる
Save	測定データをファイルに保存する※1 (→12ページ)
Save As	
Receive	本アプリケーションでは使用しません。
Print	表示している項目を印刷する※2 (Reverbの場合は、表示している個別表示グラフをプリントアウトします)
Preview	プリント時のプレビュー画面を表示する※2
Exit	アプリケーションを終了する

※1 一度保存したデータを別名で保存したい場合は、[Save As]（名前をつけて保存）を選んでください。
※2 受信しなかった項目（データのない項目）は印刷、プレビューともにできません。

Display

Graph	グラフの表示方法が変更できます。 **Graph2D** 2D ：2D(2次元グラフ)で表示します **Graph3D** 3D ：3D(3次元グラフ)で表示します
Type (Reverb表示のみ)	残響特性グラフの表示タイプが変更できます。 **Each Ch**: すべてのチャンネルをそれぞれ個別に表示します。EQ補正を[ALL CH ADJUST]で行ったときはEach Ch表示になります。 **Pair Ch**: Front/Surround/Surr BackoのL/Rペアのチャンネルで合成した残響特性を表示します。EQ補正を[SYMMETRY]または[FRONT ALIGN]で行ったときはPair Ch表示になります。
Demo	3次元グラフを回転表示させる※3

※3 終了するには、もう一度選んでチェックマークを外します。

続く

Window

Cascade	ファイルを重ねて表示する※4
Tile	ファイルを並べて表示する※4
Minimize	画面を最小化する
Arrange	最小化されたアイコンを整列する※4

※４ 複数のファイルを開いたときに実行できます。

Help

Glossary	MCACCや、本アプリケーションに関する用語解説を表示する
Version Info	アプリケーションのバージョン情報を表示する

2. 表示項目の切り換えタブ

選択した項目のグラフまたはMCACCパラメーター一覧を表示します。

3. Level［dB］

レベル軸です。

4. Time［msec］

時間軸です。

5. Channel memo（残響特性グラフのチャンネル表示時のみ）

各チャンネルごとに簡単なメモを記録できます。

6. 日付／時刻表示

測定データをパソコンへ転送した日付と時刻を表示します。

7. 補正前/補正後切り換えボタン

「Before」を選ぶと補正前の、「After」を選ぶと補正後の特性グラフを表示します。

8. チャンネルと周波数切り換えボタン

Ch：チャンネルを指定する表示モード。（グラフの奥行き軸に周波数が表示されます）
Freq：周波数を指定する表示モード。（グラフの奥行き軸にチャンネルが表示されます）

9. 一覧表示／個別表示切り換えメニュー

一覧表示（ALL）や個別表示（Left/Centerなど）を選んで、表示したいグラフを指定します。

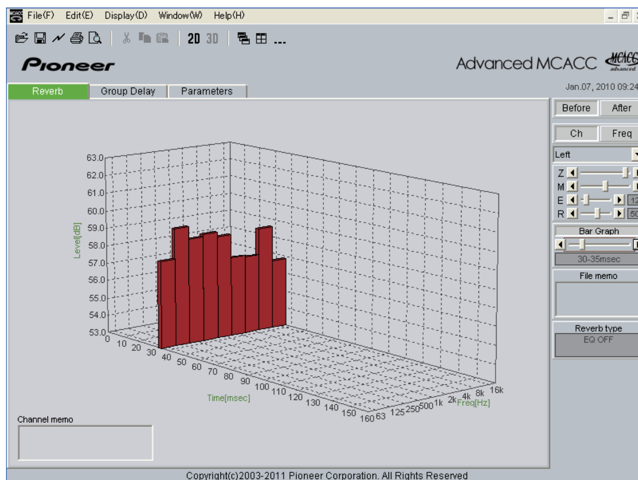
10. グラフ表示調整バー

Z：グラフの縦軸（Level［dB］またはGroup Delay［msec］）目盛りの表示単位を拡大／縮小します。
M：グラフの縦軸（Level［dB］またはGroup Delay［msec］）目盛りの表示位置を移動します。
E：3次元グラフの視点を垂直方向に移動します。（2D表示のときは変更できません）
R：3次元グラフの視点を水平方向に移動します。（2D表示のときは変更できません）

続く

11. Bar Graph

グラフの表示方法を変更します。押すたびに帯グラフ表示と棒グラフ表示が切り換わります。



Reverb：
時間軸を移動します。
Group Delay：
周波数軸を移動します。

12. File memo

測定時の状況など、ファイルについてのメモをそれぞれの項目ごとに記録できます。

13. Reverb type

残響特性が補正前(EQ OFF)の状態か補正後(EQ ON)の状態かを表示します。
(補正後の場合は、残響測定に適用したEQ補正カーブ名が表示されます)

14. Legend

グラフの色が、どのチャンネル／周波数に対応しているかを示します。スピーカーの群遅延特性グラフ表示のときは、最大で以下のチャンネルが表示されます。
F：フロント、**FH**：フロントハイト または **FW**：フロントワイド、**C**：センター、**S**：サラウンド、**SB**：サラウンドバック

15. Freq［Hz］/Channel

チャンネル指定表示ではFreq（周波数)軸、周波数指定表示ではChannel（チャンネル)軸になります。

16. Group Delay［msec］

群遅延量(群遅延時間の長さ)を表す軸です。

17. Freq［Hz］

周波数軸です。

18. Channel

チャンネル軸です。

19. 一覧表示／個別表示切り換えメニュー

一覧表示(ALL Memory)ではすべてのMCACC MEMORYを、個別表示(Memory1など)では個別のMCACC MEMORYを表示します。

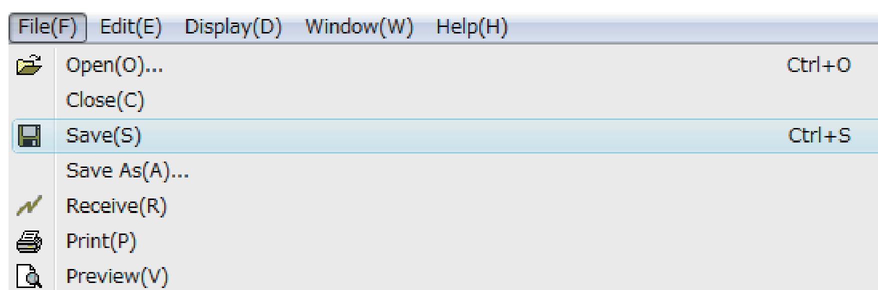
続く

■グラフの保存

製品本体からパソコンに転送される測定データは[.mcacc]というファイル形式で保存されますが、[.mcacc]ファイルをCSV形式(拡張子は[.csv])かTXT形式(拡張子は[.txt])で保存することができます。

① 測定データを保存するには、[File]から[Save] ※を選ぶ。

※一度保存したデータを再保存するとき、上書きせずに保存するには[Save As]を選んでください。



② 保存する場所を確認し、ファイルに名前を付けて[保存]を選ぶ。

メモ

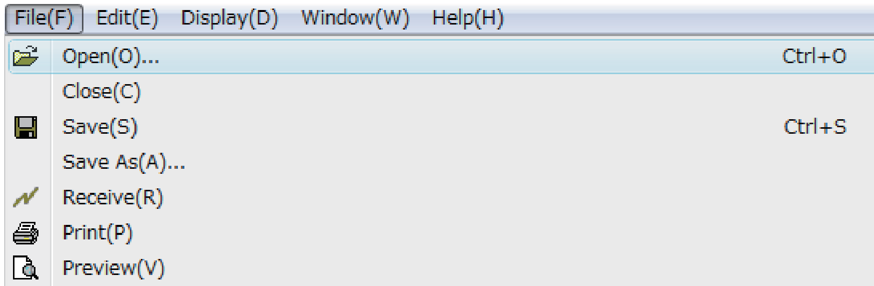
・保存したCSV形式またはTXT形式ファイルは、他のアプリケーションソフトを使って測定データを数値表として見ることもできます。ただし、他のアプリケーションでファイルを編集して保存した場合、アドバンスドMCACCアプリケーションではそのファイルを正しく開けなくなることがありますので、ご注意ください。

続く

■保存した測定データの呼び出し

複数のファイルを表示して、データを比較することができます。

① メニューバーの[File]から[Open]を選ぶ。

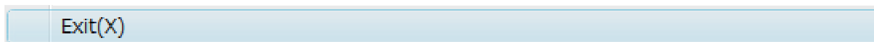


② 表示するファイルを選択して[開く]を選ぶ。

過去に保存した測定データが表示されます。

■アプリケーションの終了

① [File]から[Exit]を選ぶ。



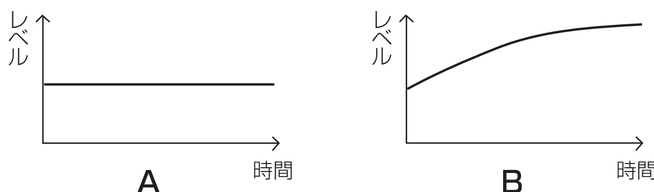
アプリケーションを終了します。

グラフの見かた

「アプリケーションの活用方法」(→3ページ)にもあるように、残響特性グラフは製品本体の機能「アドバンスドEQセットアップ」で補正時間位置を決定する際、参考にすることができます。また、部屋の残響対策の効果を確認するときにも有効です。補正前と補正後の残響特性グラフを切り換えて表示することができます。詳細は「残響特性グラフの補正前・補正後表示について」(→19ページ)をご確認ください。
群遅延特性グラフでは、使用しているスピーカーの群遅延特性(補正前)とFull Band Phase Controlによる補正効果(補正後)が確認できます。詳しくは「群遅延特性グラフ(Group Delay)の見かた」(→21ページ)をご確認ください。

■残響特性グラフ(Reverb)の見かた

このグラフは、スピーカーから一定のテストノイズを出力し続けたときのマイク入力レベルの時間変移を示したものです。
・まったく残響のない場合は、下図 A のようになります。
・残響がある場合は、徐々に音響パワーが累積されて下図 B のようになります。



メモ

・低い周波数帯域は群遅延特性の影響で 0 ms 付近の立ち上がりが鈍くなる場合があります。
・グラフが表示範囲外にあったり、範囲内のぎりぎりにある場合は、グラフ表示調整バーの Z(Zoom)を操作してレベルの表示範囲を変更すると、グラフ全体を表示できます。
・各スピーカーの「距離と能率の差」による「ディレイとレベル差」は、グラフを見やすくするため、補正されたものを表示します。レベルについては本体で設定したチャンネルレベルが反映されるので、あらかじめ[オートMCACC]の[全項目]または[スピーカー出力レベル]でレベルを補正してから残響測定をしてください。
・各周波数帯で出力レベルに大きな差がある(周波数特性の乱れが大きい)場合でも、[オートMCACC] の SYMMETRY または ALL CH ADJUST 補正を行うことによって、チャンネルごとの周波数特性をフラットに近づけることができます。(⇒製品本体の取扱説明書を参照)
・製品本体の機能「アドバンスド EQ セットアップ」の補正値を、パソコンに表示されたグラフ上のレベルから算出することは困難です。(「アドバンスド EQ セットアップ」の自動設定では、EQ のバンド間干渉や分析フィルタの特性を考慮して、理想的な特性になるように補正しています。)
・オート MCACC([全項目]、[スピーカーシステム保持] または [EQ Pro. & 定在波制御])の測定後と「残響特性の測定」(マニュアル MCACC の [EQ プロフェッショナル]) の測定後では定在波制御の設定値によって、残響特性グラフに違いが出ることがあります。オート MCACC では定在波を制御した状態で残響測定をしているため定在波の影響を排除した残響特性グラフが表示されます。それに対し、「残響特性の測定」では定在波を制御せずに残響測定するため定在波の影響を含んだ残響特性がご覧いただけます。お部屋の残響特性そのもの (定在波もそのまま) の状態をご覧になりたい場合は、「残響特性の測定」をお勧めします。

続く

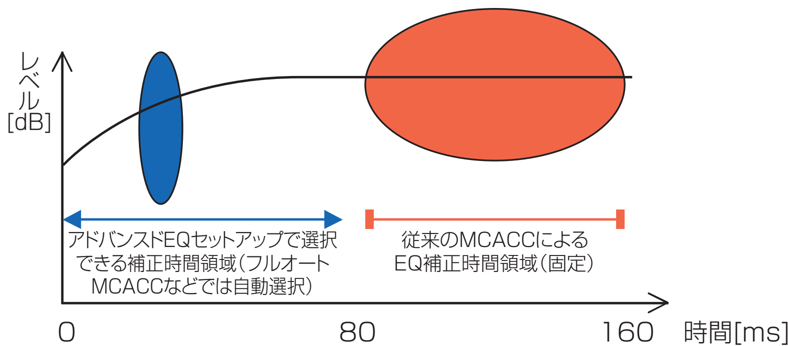
■アドバンスド EQ セットアップでの補正時間位置の決めかた

従来のMCACCによるEQ補正では、マイク入力のデータ取得時間が80〜160[ms]（図1：赤の部分）で固定になっていました。それに対して、よりプロフェッショナルなEQ補正ができる本機の「アドバンスドEQセットアップ」では、0〜80[ms]の中の1ポイント（20[ms]幅）（図1：青の部分）をお客様が選択できます。

メモ

・補正時間位置の設定は、製品本体の機能「EQ プロフェッショナル」の手動設定「アドバンスド EQ セットアップ」での設定です。自動設定（[フルオート MCACC]）を行った場合、この設定は不要です。（⇒製品本体の取扱説明書を参照）

図 1　マイク入力のデータ取得時間の比較

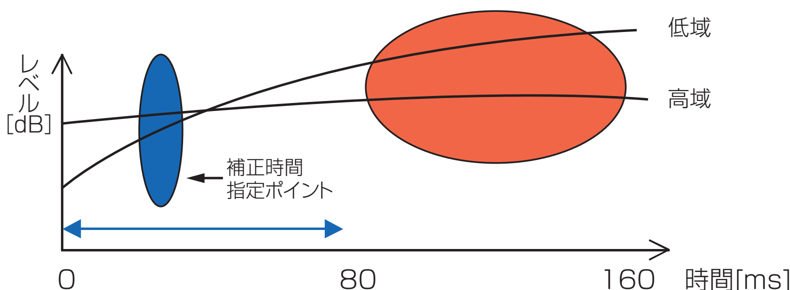


補正時間位置の設定は、測定した残響特性のグラフを見て、以下のパターン1〜3を参考に決めます。

パターン1. 低域と高域で残響特性が異なる場合

図2のような残響特性の部屋の場合、低域が大きく響いて高域があまり響かないというような特性になっています。従来のMCACCによるEQ補正では80〜160[ms]（図2：赤の部分）のデータを取得していたため、低域の音量が大きく高域が小さいと判断し、EQのカーブは高域を上げぎみに補正します。ところが、スピーカーから直接耳に届く約40 ms以内の特性は高域を上げる必要がないくらい十分な音量が出ていますので、従来のEQ補正では高域がきつく感じることがありました。このような場合にはスピーカーからの直接音を補正する意味で、**アドバンスドEQセットアップで30〜50[ms]（図2：青の部分）くらいを指定して補正をすると、スピーカーからの直接音（初期反射音を含む）がフラットになり、聞きやすい音場になります。**

図 2

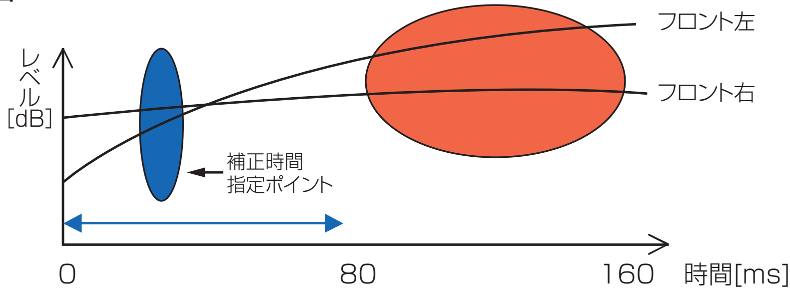


続く

パターン2. チャンネルごとに残響特性が異なる場合

図3のようにチャンネルごとに残響特性が異なっている場合、従来のMCACCによるEQ補正では80～160[ms]（図3：赤の部分）のデータを取得していたため、スピーカーから音が放射されてから80[ms]以降に、徐々に各チャンネルの音色がそろってくるように補正していました（直接音の特性をそろえることは不可能でした）。しかし、音像の定位感や移動感、各スピーカーからの音のつながりは、残響音ではなく各スピーカーからの直接音（初期反射音を含む）に左右されます。このような場合には、**アドバンスドEQセットアップで30～50[ms]（図3：青の部分）くらいを指定して補正をすると、各チャンネルの直接音がそろい、音像の定位感や移動感、各スピーカーからの音のつながりが理想的な音場になります。**

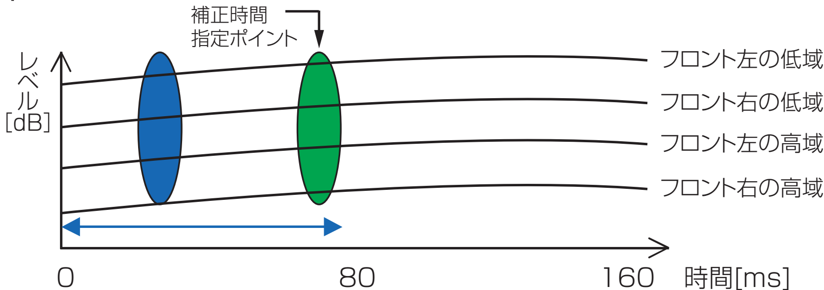
図 3



パターン3. 低域と高域、および各チャンネルの残響特性が似ている場合

図4のように、各周波数、各チャンネルの残響特性が似ているような場合には、残響特性が悪影響を及ぼすことはありませんので、**アドバンスドEQセットアップで60～80[ms]（図4：緑の部分）くらいを指定して補正することをお勧めします。そうすることで、直接音および残響音をすべて含んだトータルでの補正が行われ、理想的な音場空間を再現できます。**

図 4



メモ

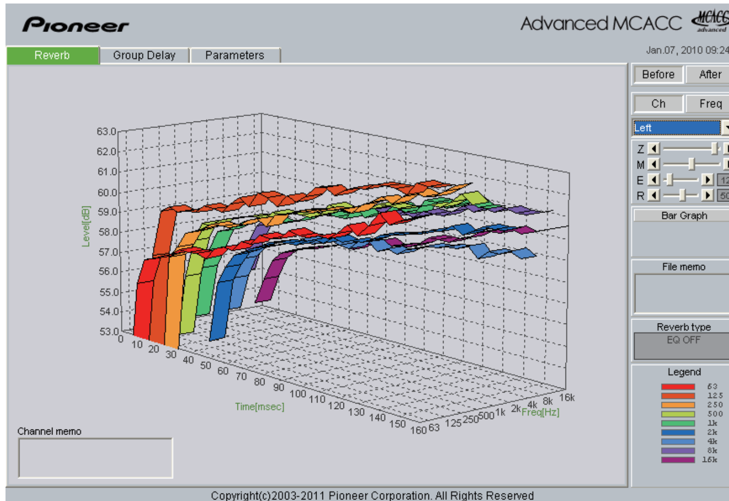
- アドバンスド EQ セットアップの設定で、どの時間位置に設定するかわからないときは30-50［ms］を指定してください。しかし、グラフ表示を見てその時間位置にいずれかの周波数帯で特異な残響カーブがあるときは、何か突発的な変化と考えられるため、30-50［ms］の時間位置は選択せず、他の時間位置を選んでください。
- アドバンスド EQ セットアップでの補正時間位置は、設定する時間位置を変更しながら、聴感が最も良いと感じる位置を選ぶのも良い方法です。
- 補正時間位置の設定は、パソコン上では行えません。製品本体の機能「アドバンスド EQ セットアップ」の設定で、製品本体の映像出力による GUI 画面上でのみ行えます。

続く

■部屋の残響対策の確認

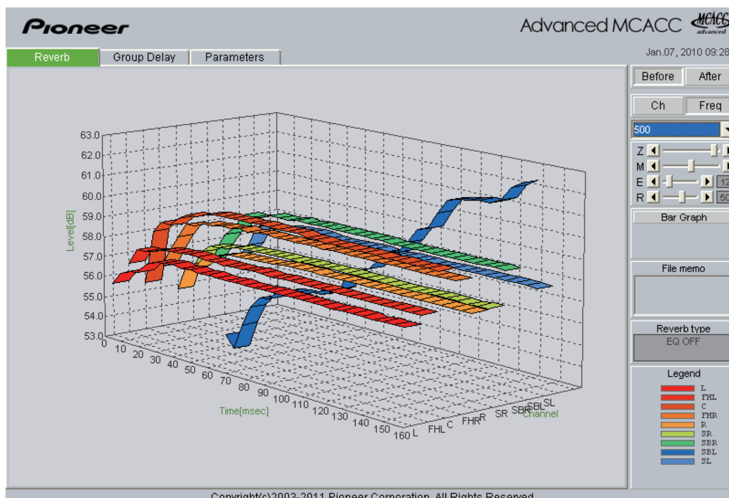
グラフから部屋の残響特性がわかります。以下に4つの例を挙げますので、グラフを見るときの参考にしてください。

ケース1. 全周波数帯域でグラフが右上がりになっている場合



これは、残響の大きい部屋だと考えられます。お客様のお好みにもよりますが、もし可能であれば、よりデッドな音響空間を作るため吸音材などの対策をとることをお勧めします。

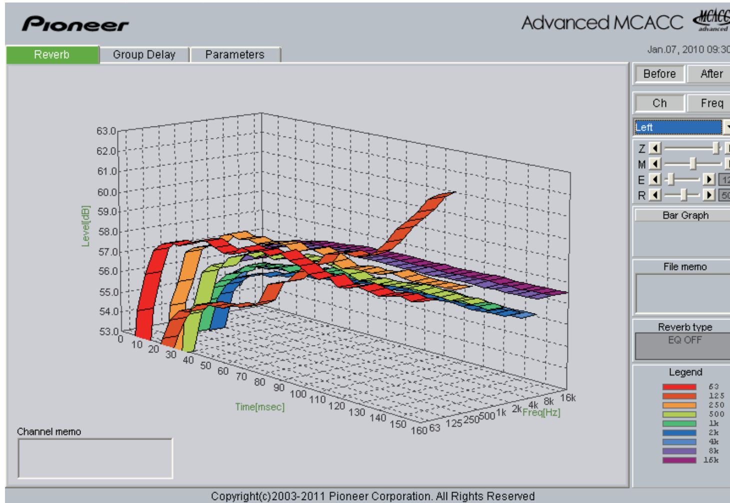
ケース2. 特定のチャンネルのみ残響特性が異なっている場合



これは、そのスピーカーの付近に、再生音に影響を与えるものがあると考えられます。もし可能であれば、その影響を少なくする対策をとることをお勧めします。

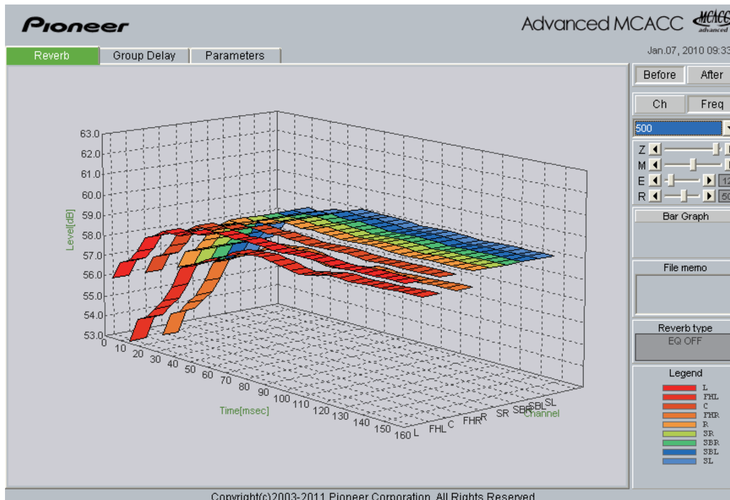
続く

ケース3. 特定の周波数のみ残響特性が異なっている場合



これは、その周波数帯の再生音に影響を与えるものがあると考えられます。もし可能であれば、その影響を少なくする対策をとることをお勧めします。

ケース4. 特定のチャンネルのみ立ち上がりが遅い場合



これは、スピーカーの設置が不安定なときに起きることがあります。もし可能であれば、スピーカースタンドなどの土台をしっかりと安定させることで、他のスピーカーと特性をそろえることができる場合があります。

メモ

いずれのケースも、[フルオートMCACC]※を行うことで、部屋の特徴を考慮した補正時間位置を自動的に選択して補正するので、最適な音場を得ることができます。（⇒製品本体の取扱説明書を参照）

※[オートMCACC]で測定を行うときは、[全項目]、[スピーカーシステム保持]または[EQ Pro. & 定在波制御]を選んだときのみ残響を考慮した自動補正を行います。

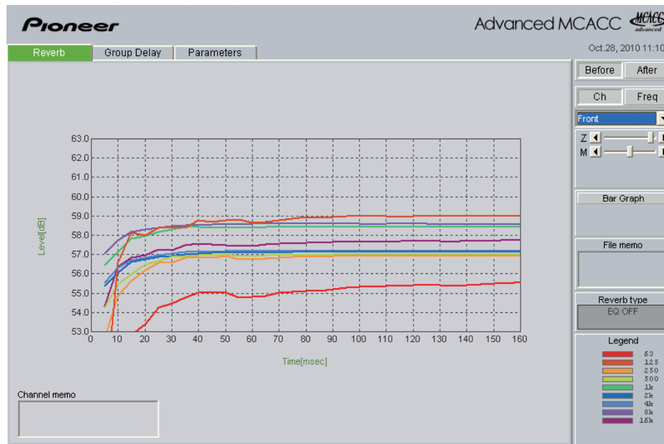
続く

■残響特性グラフの補正前・補正後表示について

補正前・補正後の残響特性グラフを見比べることで、残響特性がどのように補正されたかを確認できます。「Before」を選ぶとEQ補正前の残響特性グラフを、「After」を選ぶとEQ補正後の残響特性予測グラフを表示します。EQ補正後の実測の残響特性を確認したいときは「EQ補正後の残響特性（実測値）を表示する」(→20ページ)をご確認ください。

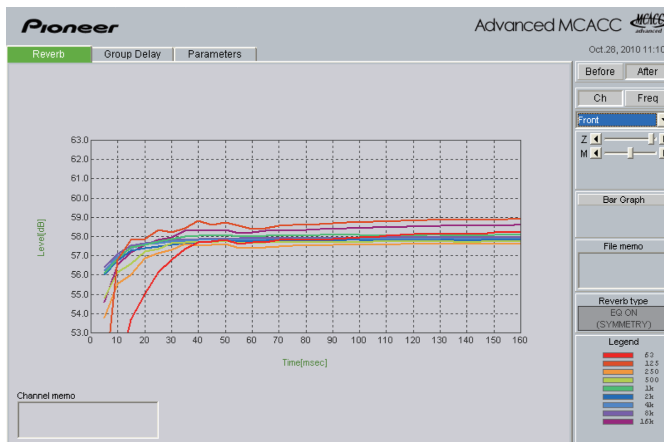
補正前の残響特性グラフ

各チャンネルの各周波数における残響特性がそろっていないことが確認できます。



補正後の残響特性グラフ

補正前に比べて各周波数ごとのグラフがEQの補正分だけ上下に平行移動し、指定した時間軸上のあるポイント（初期設定の場合は30-50ms）でグラフがそろうことが確認できます。



メモ

- 補正前と補正後のグラフは結果がわかりやすいように 2 次元表示させています。
- フルオート MCACC にて、EQ タイプを SYMMETRY で補正したときのみ「After」のグラフを表示できます。EQ タイプを ALL CH ADJ または FRONT ALIGN のいずれかで補正したときは、残響特性を再度実測で測定します。詳しくは→ EQ 補正後の残響特性（実測値）を表示する（20 ページ）をご確認ください。

続く

EQ 補正後の残響特性グラフの表示タイプについて

[SYMMETRY]または[FRONT ALIGN]の場合

・表示タイプが Pair Ch 表示になります （→ 9 ページ）。それぞれの EQ カーブの特性上、Each Ch 表示させると各チャンネルの残響特性は正しくそろいません。

[ALL CH ADJUST]の場合

・表示タイプが Each Ch 表示になります （→ 9 ページ）。EQ カーブの特性上、Pair Ch 表示させると各ペアチャンネルの残響特性は正しくそろいません。

■ EQ 補正後の残響特性（実測値）を表示する

フルオートMCACCをEQタイプ：SYMMETRYで測定したあとのReverbグラフ表示画面で、補正前・補正後のグラフを表示することができますが、この時の補正後のグラフはMCACC補正後の残響特性を予測して表示しています。MCACC補正後の予測表示ではなく、実測の残響特性グラフを確認したい場合は、以下の方法で補正後の残響特性を測定し直す必要があります。以下の手順に従って操作してください。一度も[フルオートMCACC]を行っていないときは、事前に[フルオートMCACC] を行っておきます（⇒製品本体の取扱説明書を参照）。

① [マニュアルMCACC]の[EQプロフェッショナル]を選び、[残響特性の測定]を[EQ オン]で行う。
（⇒製品本体の取扱説明書を参照）

EQ補正後の残響特性を測定します。EQ補正後の残響特性の測定は、[フルオートMCACC] を行ったときと同じマイク位置で測定してください。また、製品本体で選ばれているMCACC MEMORY内のEQ値で測定されますので、残響特性の測定前にあらかじめ補正後の測定をしたいMCACC MEMORYを選んでおいてください。

② フルオートMCACCが終了したら「ホームメニュー」ボタンを押してホームメニューを終了する。

ホームメニューが終了した時点で測定データの転送準備状態となります。

③ パソコン側でAVナビゲーターを起動する。

④ AV ナビゲーターのメニューから[Settings]を選んで[MCACCデータ]タブを選択する。

⑤ [MCACCデータの保存先]を指定する。

ここで指定された保存先へ測定データを保存します。[参照]を押すと保存先を変更できます。

⑥ AV ナビゲーターのメニューから[MCACCアプリ]を選んでMCACCアプリケーションを起動する。

MCACCアプリケーションが起動されると同時に「MCACCデータ」画面が表示されます。

⑦ MCACCデータ画面の指示に従って測定したデータをダウンロードする。

手順①で測定したデータが手順④で指定した保存先へ転送されます。

⑧ パソコンに保存された[.mcacc]ファイルを選択して[開く]を選ぶ。

Reverbグラフを表示させ、「After」を選ぶことで、EQ補正後の実測の残響特性グラフを表示することができます。

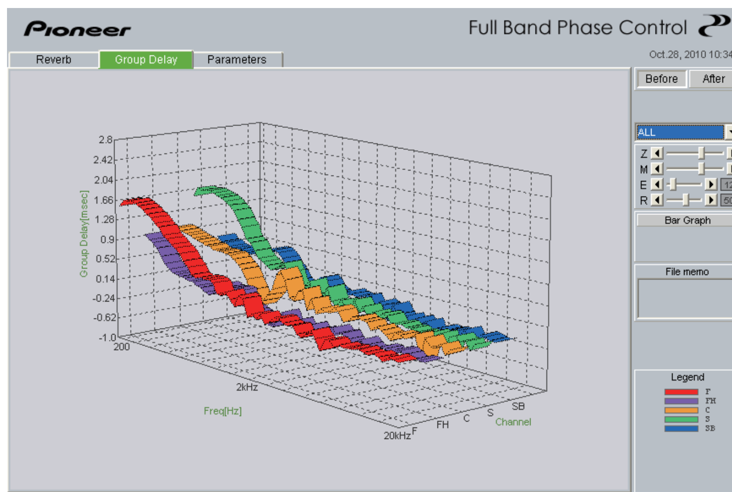
続く

■群遅延特性グラフ（Group Delay）の見かた

補正前の群遅延特性グラフと補正後の群遅延特性グラフを表示することができます。補正前/後の群遅延特性を見比べることで、使用しているスピーカーの群遅延特性とFull Band Phase Control機能による補正の効果が詳しく確認できます。

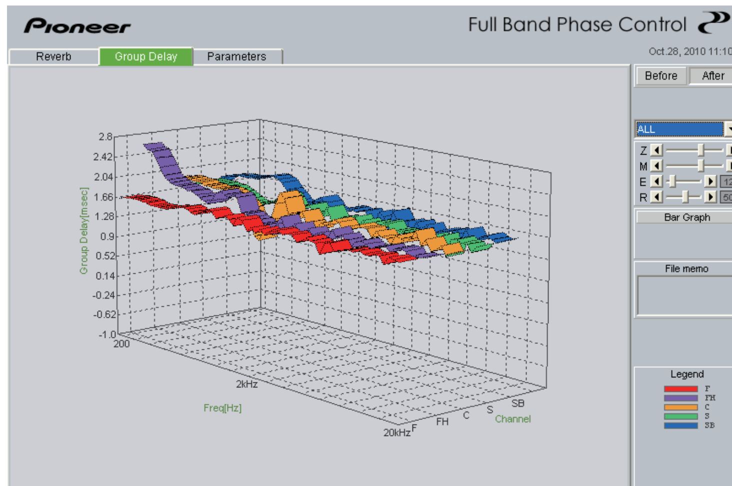
補正前の群遅延特性グラフ

各チャンネルにおいて、高音域に対して低音域が遅れている（群遅延が発生している）ことが確認できます。



補正後の群遅延特性グラフ

各チャンネルにおいて、帯域間の遅延時間差が縮まり、群遅延が補正されたことを確認できます。



メモ

お使いのスピーカーや視聴環境などによっては、群遅延特性グラフが急な角度で表示されることがあります。そのような表示がされた場合でも、実際の補正では極端に急な角度で上下している部分の特性については無理な補正をしないため、音質に悪影響を及ぼしません。

MCACC のパラメーター表示

アドバンスドMCACCで測定した残響周波数特性、群遅延特性データの他にも、MCACC MEMORY内に設定されている全パラメーター（測定結果）をパソコン上で確認することができます。

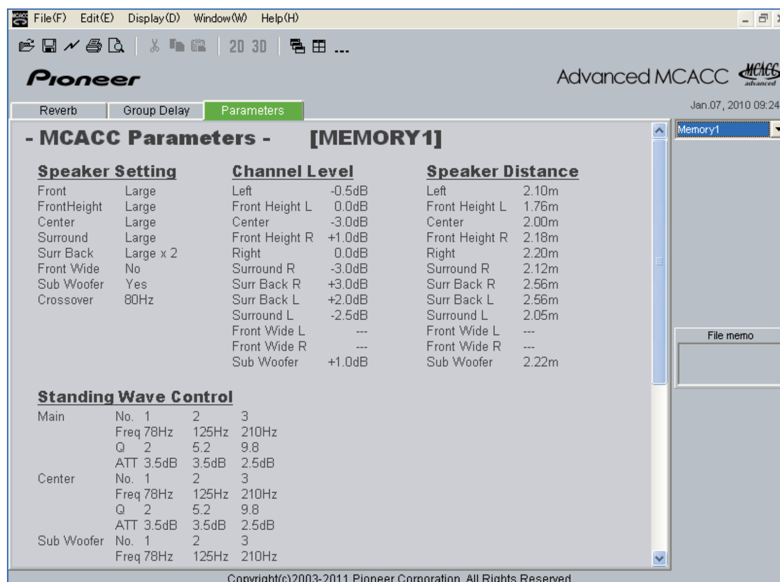
■表示できるパラメーター

1. Speaker Setting（スピーカーシステムおよびクロスオーバー周波数）
2. Channel Level（スピーカー出力レベル）
3. Speaker Distance（スピーカーまでの距離）
4. Standing Wave Control（定在波制御のフィルター）
5. Acoustic Cal EQ（視聴環境の周波数特性の補正）※

※ MCACC MEMORY ごとに保存されている EQ 補正値の他に、EQ 補正カーブ名（[Symmetry]、[All Ch Adjust] または [Front Align] のいずれか）が表示されます。また、マニュアルで EQ を調整した MEMORY は、[Custom] と表示されます。補正後の残響特性表示の測定（→ 20 ページ）は、この MEMORY ごとの EQ 補正カーブを適用して残響測定が行われます。

■各 MEMORY ごとの表示

MEMORY 1～MEMORY6まで、すべてのMCACC MEMORYのデータを受信し、表示できますが、各MEMORYごとに表示することも可能です。



メモ

表示しきれない項目があるときは、画面の中のスクロールバーを動かして表示させてください。

アプリケーションの更新

MCACCアプリケーションのソフトウェアのアップデートが必要かどうか、AVナビゲーターのメニューの[ソフト更新]で確認できます。
AVナビゲーターのアップデートが必要な場合はアップデートファイルをダウンロードしてAVナビゲーターをアップデートしてください。
MCACC アプリケーションはAVナビゲーターをアップデートすることで必要に応じてアップデートが行われます。

① AVナビゲーターのメニューから[ソフト更新]を選択する。

② [OK]をクリックしてAVナビゲーターのアップデートが必要かどうか確認する。

・[お使いのソフトウェアは最新です。]と表示されたときはアップデートの必要はありませんので[OK]を押して終了します。
・[本体のソフトウェアのアップデートが必要です。]と表示されたときはAVナビゲーターのアップデートの必要はありませんので[OK]を押して終了します。(このまま本体のアップデートを行うときは画面の指示に従ってアップデートファイルをダウンロードし、アップデートを行います)
・[AVナビゲーターのソフトウェアのアップデートが必要です。] と表示されたときは手順③へ進みます。
・[本体・AVナビゲーターともに、ソフトウェアのアップデートが必要です。] と表示されたときは手順③へ進みます。

③ [OK]をクリックしてアップデートファイルをダウンロードする。

画面の指示に従ってアップデートを行ってください。

困ったとき

アドバンスドMCACCアプリケーションを使うとき、ご使用のパソコンのシステム環境や他のアプリケーションとの相性など、さまざまな要因によってエラーなどが出ることがあります。
そのようなときには、参考のため以下のトラブルシューティング項目をご覧になってください。
それでも問題が解決しない場合は、パイオニア·カスタマーサポートセンターへご相談ください。

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーコール）
0120-944-222
（受付時間など詳細については、本取扱説明書の表紙および製品本体の取扱説明書に情報があります。）

アプリケーションの動作が不安定／異常な動作をする

原因1） 使用しているパソコンの環境が必要条件を満たしていない場合、動作が遅くなったりフリーズしたりするなど、不安定になる場合があります。

→▶アプリケーションを使用するためのPC環境の必要条件（2ページ）をご確認ください。すべての条件が満たされていないと、アプリケーションはご使用になれません。

原因2） パソコン環境の必要条件を満たしていても、アプリケーション上でたくさんのファイルを開き、そのすべてをMCACC Parametersで表示させせると、パソコンのメモリ不足によりエラーメッセージが表示されることがあります。

→下記のエラーが出たときは、開いているファイルのいくつかを閉じるか、アプリケーション自体を一度終了させてから再び起動させてください。また、たくさんのファイルを比較したいときは、印刷機能（Print）を使ってプリントアウトし、紙で比較することをお勧めします。

このコマンドを実行するのに十分な記憶域がありません。

Not enough storage is available to process this command.

続く

AVナビゲーターのアップデートができない

原因1）システムリソースが足りないなどの理由で、エラーメッセージが表示されることがあります。

→パソコンを再起動して他のアプリケーションを起動しない状態で、アップデートファイルを起動してください。

原因2）アドバンスドMCACCアプリケーションと他のソフトウェアとの相性により、アップデートがうまくいかないことがあります。

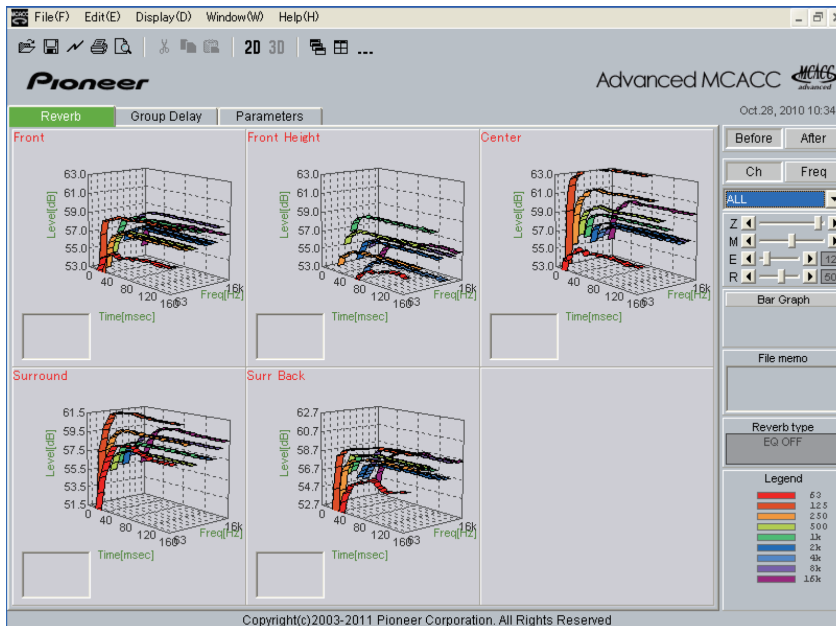
→以下の順番で実行してみてください。

1）パソコンで他のアプリケーションも起動している場合は、他のアプリケーションを終了してから、アップデートファイルを起動してください。

2）それでもうまくいかない場合は、パソコンを再起動して、他のアプリケーションを起動しない状態で、アップデートファイルを起動してください。

残響特性グラフを印刷できない

原因）ALL表示している残響特性グラフは印刷できません。



→印刷したいチャンネルまたは周波数の個別表示グラフに変更して、印刷してください。

続く

アプリケーション操作で一部使用できない機能がある

原因）　ご使用の製品用ではないアプリケーションソフトを使用すると、正しく使えないことがあります。

ご使用になっている製品型番を確認して、それに対応したアプリケーションソフトを使用してください。

EQ補正後残響周波数特性表示のグラフがフラットにそろわない

原因1）グラフの傾斜は残響特性を示しています。部屋の残響特性そのものは、EQ補正だけでは直すことができないため、グラフの傾斜角度は補正前後でも同じになります。

補正により、各周波数ごとのグラフがEQの補正分だけ水平移動します。補正の効果として、指定した時間軸上のあるポイントでそろうことが確認できます。
残響特性(グラフの形状)そのものは、視聴環境を改善しないと変化しません。
(→14～16ページ)

原因2）さまざまな原因によって、SYMMETRYやALL CH ADJでEQ補正を行っても周波数特性のグラフはフラットにならないことがあります。

MCACCでは、無理な補正をせず、音質的に最良となるよう自動的に補正を行います。

「マニュアルMCACC」の「EQの調整」で調整した補正量が補正後表示のグラフに反映されない

原因）　残響周波数特性の表示では、各帯域を分析フィルタで分析したものを表示します。一方、EQ補正は専用のフィルタを使用して信号の補正を行っており、分析フィルタとEQ補正専用フィルタの形状の違いがグラフに反映されないことが原因です。

オートMCACCの場合は、このフィルタ形状による違いも考慮したうえで補正を行っています。

スピーカーの設定で[SMALL]と設定されたスピーカーの低域が補正されていない

原因）　[SMALL]に設定されたスピーカーは、EQによる低域の補正は行いませんが、残響特性の表示はスピーカーから出る音の純粋な特性を示すため、低域補正をしていない状態での特性がそのまま表示されます。

MCACCはスピーカーの再生能力に応じて適切な補正を行っているため、[SMALL]に設定されたスピーカーの低域補正には問題ありません。

パイオニア株式会社
〒 212-0031 神奈川県川崎市幸区新小倉1番1号

©2011パイオニア株式会社
禁無断転載

<ARA7283-A>